

平成21年 5月 23日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18510212  
 研究課題名（和文）欧州における越境地域協力の制度化とマルチレベル・ガバナンスに関する研究  
 研究課題名（英文）Study on the Institutionalization of the Regional Cooperation and the Multi-level Governance in Europe  
 研究代表者 高橋 和 (TAKAHASHI KAZU)  
 山形大学・人文学部・教授  
 研究者番号：50238094

## 研究成果の概要：

この研究は、ユーロリージョンと呼ばれる欧州の基礎的自治体レベルにおける越境地域協力の制度化とその問題点をマルチレベル・ガバナンスという観点から検討した。INTERREG, EGTC という EU の地域協力の諸制度が越境地域協力を活性化するために重要な役割を果たすが、地域のイニシアチブが十分に育成されないままに、制度化が行われると国家戦略に地域が利用されるというパラドックスを生じるという問題を抱えている。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	500,000	0	500,000
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	660,000	3,360,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・地域研究

キーワード：ユーロリージョン、越境地域協力、EU、INTERREG、EGTC  
 近隣諸国政策、マルチレベル・ガバナンス、国際協力

## 1. 研究開始当初の背景

冷戦の終結は、欧州においては東西欧州の統合と EU の統合の進展という地域協力の拡大と深化をもたらせた。中東欧では、かつての東西ヨーロッパの分断線を跨ぐ越境地域協

力の動きが活発化し、多くのユーロリージョンが設立された。越境地域協力は、それぞれの地域のニーズに沿って、ボトムアップで立ち上げられたものであったが、その地理的な拡大によってかつての東西分断線はユーロ

リージョンによって、ほとんど覆いつくされることとなった。その結果、越境地域協力は、国境の相対化と国家間の対話の場を確保するという点で、信頼醸成の機能を果たすこととなり、その安全保障の機能ゆえに、EUは制度化を進めていくことになる。しかし、地域によってニーズが異なるところで、制度化することによる問題も生じている。こうした国家をアクターとしない地域協力の可能性と問題点を明らかにすることが、今後の地域協力を発展させるために不可欠であり、また日本が近隣諸国との関係において越境地域協力を進めていくうえで、欧州の経験は有用であろうと思われる。

## 2. 研究の目的

欧州の基礎的自治体レベルにおける越境地域協力は、INTERREG という EU の地域協力の制度化によって、飛躍的に増大し、欧州では越境地域協力をを行うアクターとしてのユーロリージョンの数は100を越えており、EUの域内だけでなく、域外にも拡大している。この越境地域協力の水平的拡大の要因は、EUがINTERREG、およびPHARE/CBC、TACIS/CBCというプログラムによって越境地域協力を制度化したことが大きい。しかし、越境地域協力はその活動のアクターが任意団体であるという点で、正統性の問題が生じることになる。EUはこの問題に対して、ユーロリージョンを公法上の団体として承認することによって対処するため、EGTCという制度を導入した。EGTCは国家間の協定がなくてもユーロリージョンが設立できるという点で、画期的ではあるが、国家の関与を義務づけるという点で、越境地域協力を推進するEUの根拠となっている「補完性の原理」を脅かす危険性を孕むというジレンマを抱えている。EUでは、このジレンマを軽減するための政策として、

さまざまなレベルのアクターを関与させるマルチレベル・ガバナンスが試みられており、この研究の目的は、このマルチレベル・ガバナンスがユーロリージョンの正統性をどの程度担保できるかについて検討することである。

## 3. 研究の方法

研究の方法は、理論的なアプローチと実証的なアプローチの二つのアプローチで行った。理論的なアプローチでは、EGTCの法的な側面からの分析を中心に行い、実証的なアプローチは、ユーロリージョンにおけるヒアリング調査と10年以上にわたりチェコ・ポーランド国境地域において住民の意識調査を行ってきた連携研究者ヴァーツラフ・ハウジヴィチカ博士との意見交換を中心に行った。

## 4. 研究成果

- (1) 欧州におけるマイクロレベルの越境地域協力は、EUの補助金制度INTERREGやPHARE/CBC、TACIS/CBCによって欧州全土に拡大し、EUの統合を進めるうえで重要な役割を担ってきた。こうした越境地域協力の進展は、国家の機能を上位と下位に分化するマルチレベル・ガバナンス(MLG)として理解されてきた。しかし、これまでの研究において、国家の衰退、国家の上位および下位アクターへの権限の移譲を主張するMLGでは、越境地域協力の実態を十分に説明することはできない。すなわち、越境地域協力はマイクロレベルの地域協力であるが、その地域でプロジェクトを実施するためには、国家の下位アクターとしての基礎的自治体や地方政府のみならず、EU

- (2) そうした越境地域協力の形態は、本来期待されていた周辺・辺境地域における経済発展という目的が十分に成果を上げられない場合においても、国家間の信頼醸成に寄与しているという観点から評価されてきた。
- (3) この信頼醸成という機能は、かつての東西分断線上に設置されたユーロリージョンにおいては、2004年にこれらの諸国がEUに加盟するまでの時期、対口関係上重要な役割を果たした。それゆえに、EUはINTERREG IIの時期に大幅な制度改革をしながら、越境地域協力の制度化を図り、それを東欧諸国への拡大していった。それは近隣諸国政策のなかにも取り込まれ、越境地域協力は近隣諸国政策の重要な課題となっていた。
- (4) EUの制度化における問題点は、多様なアクターに係る越境地域協力の正統性の問題点である。任意団体が自由にEUにアクセスすることによって、補助金を得る制度には、住民に対するアカウンタビリティがなく、また国家も一義的には責任を持たない。そのために、EUはEGTCという制度を導入し、ユーロリージョンに対して、EUの規則において公法上の地位を与えるとこととした。これによって、「地域」は国家の一

部ではなく、国家から自立した機関としての地位を獲得することになった。

- (5) INTERREGやEGTCというEUの地域協力の制度化は、地域を可視化するというメリットがある。
- (6) 他方で、これらの制度の導入の背景には、EUの東方拡大によって、越境地域協力が旧社会主義国間で行われるようになり、地域のイニシアチブが希薄な地域で行われる越境地域協力は、期待した成果をえられないばかりか、制度を利用するための協力となり、補助金が有効に使われていないという指摘がなされている。そのためにEUは、INTERREG IIIでは、国家の関与を必須とし、EGTCにおいても国家が責任を持つことを明示することに至った。
- (7) その結果、地域のボトムアップで、地域にニーズをくみ上げるための制度であったはずの越境地域協力は、東欧諸国では、国家の外交戦略として利用されることとなり、国家戦略の観点から、地域が従来おこなってきた地域協力を阻害するという事態まで引き起こしているのである。
- (8) 越境地域協力における正統性とアカウンタビリティの問題は、問題をそれぞれの国家の責任に回帰させるのではなく、地域住民と越境地域協力体との間での民主化のプロセスを組み込む方向（下に開く）で制度設計をやり直す必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① Vaclav Houzvicka, 'Czechs and Germans shaping the Regional Milieu: The Case of Growing Regional Cooperation influenced by the Europeanization of Mutual Relations,' 山形大学人文学部『研究年報』第6号、2009年3月、163-184ページ。査読有  
<http://www-h.yamagata-u.ac.jp/kenkyuu/pdf/nenpou6.pdf>
- ② 高橋和「地域協力の変容とEUの近隣諸国政策——東欧の視角——」多賀秀敏編『EUサブリージョンと東アジア共同体——地域ガバナンス間の国際連携モデル構築——』2009年3月、39-48ページ。査読無
- ③ 高橋和「越境地域協力の制度化と変容」山形大学大学院『社会文化システム研究科紀要』第4号、2007年、33-49ページ。査読有  
[http://www-h.yamagata-u.ac.jp/kenkyuu/pdf/kiyou4\\_n.pdf](http://www-h.yamagata-u.ac.jp/kenkyuu/pdf/kiyou4_n.pdf)
- ④ 高橋和「EUにおける地域協力の制度化の進展と地域空間の形成に関する一考察——INTERREG IIIをめぐって——」山形大学『山形大学紀要(社会科学)』第36巻第2号、2006年、47-67ページ。査読有  
[http://www\\_lib.yamagata-u.ac.jp/kiyou/kiyous/kiyous-36-2/kiyous-36-2-047to067.html](http://www_lib.yamagata-u.ac.jp/kiyou/kiyous/kiyous-36-2/kiyous-36-2-047to067.html)

[学会発表] (計 3 件)

- ① 高橋和「地域協力の行方」国際関係史研究会、2009年3月15日、(山形大学)
- ② ヴァーツラフ・ホウジヴィチカ「チェコ人とドイツ人——地域協力の拡大は相互理解にどのように寄与したか」、北東アジア学会第14回学術研究大会、2008年9月27日、(山形大学)
- ③ 高橋和「EUの近隣諸国政策と越境地域協力」環日本海学会第13回学術研究大会、2007年12月9日、(立命館アジア太平洋大学)

[図書] (計 3 件)

- ① 高橋和 (共著)『EUスタディーズ3 国家・地域・民族』勁草書房、2007年、177-193ページ。
- ② 高橋和、佐藤幸男、臼井陽一郎、浪岡新太郎、『拡大EU事典』小学館、2006年、総303ページ。
- ③ Takahashi Kazu (Co-author), *Migration, Regional Integration and Human Security: The Formation and Maintenance of Transnational Spaces*, Ashgate 2006, pp.245-257.

[その他]

- ① 高橋和「EUにおける外国人労働者に係る諸問題について——移民政策を中心に——」北海道・東北地区労働委員会局長会議、平成19年5月25日(ホテル・キャッスル山形)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 和 (TAKAHASHI KAZU)  
山形大学・人文学部・教授  
研究者番号：50238094

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

菅原 淳子 (SUGAHARA JUNKO)  
二松学舎大学・国際政治経済学部・  
教授  
研究者番号：40196697

(4) 研究協力者

ヴァーツラフ・ハウジヴィチカ  
(VACLAV HOUZVICKA)  
チェコ科学アカデミー・社会学  
研究所・主任研究員